



島根大学のジオパーク学プログラムがさらに充実!

島根大学の活動を紹介します!

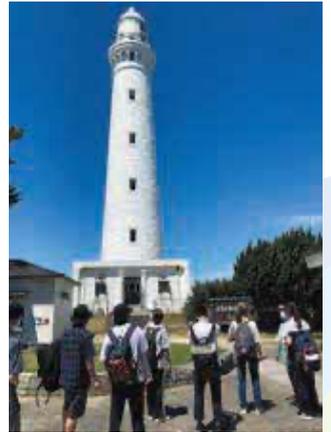


©DLE

島根大学の学生団体(仮称SDGS:島根大学ジオパークサポーター)の活躍に期待

平成25年度に始まった島根大学の「ジオパーク学プログラム」では、ジオパークを地質・地形、生態系、歴史、文化、景観、人々の暮らしや産業などを切り口に“地球と人間のかかわり”を主題とする市民のための自然公園と位置付け、ジオパークを活かして地域活性化を模索・支援する学際的な人材を育成することを目指しています。今年度からは新しくSDGsの視点を取り入れたプログラムの構築と実践、ジオパーク活動を主体的に行う学生団体(仮称:SDGS)の結成を進めています。

指導する入月教授は「ジオ・エコ・ヒトの関係を学び、SDGs達成への意識を高め、学生が地域社会と積極的に関わることで、地域の活性化、魅力の向上、交流・定住人口の増加へとつながれば」と期待します。多彩な論客による講義の他、学外でのアクティブラーニングに重きを置き、意欲のある学生(SDGS)が主体となってジオパークの保全・保護、教育への活用、ジオツーリズム企画、ジオブランド開発、学生目線の情報発信などに取り組む予定です。教え子が兵庫、隠岐、岩手、北海道などのジオパーク関連組織に就職した実績を持つ入月教授。「島根半島エリアは古生物化石、そして貴重な地層・岩石・鉱物の宝庫。島根半島には素晴らしい価値があります。ジオサイトに足を運んで地球のロマンを感じてほしい」と話してくれました。



ジオパーク学演習
日御碕でのフィールドワークの様子



島根大学学術研究院
環境システム科学系教授博士(理学)
入月 俊明氏

島根大学と連携に関する協定が締結されました

9月2日、島根半島・宍道湖中海ジオパーク(国引き)推進協議会と国立大学法人島根大学との連携に関する協定締結式を松江ビジターセンターで行いました。ジオパークの地質遺産の保護や理解を進め、教育や地域振興に活用することで持続可能な地域社会の実現に寄与することを目的とする内容で、人材育成や学術研究強化などでの連携協力を強化します。



島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会と
国立大学法人島根大学との連携に関する協定締結式
協定書を交わす服部学長と上定会長



ジオパークの見どころ、
ジオサイトを紹介するぞ!

ジオサイト見どころ紹介 シリーズ2 高山・和久羅山 (だけさん・わくらやま)

約600万年前、地中のマグマが噴き出して生まれたのが高山・和久羅山です。爆発的な噴火ではなく、昭和新山のように強い粘土の溶岩がドーム状に盛り上がりこの山塊ができました。山塊の岩の性質は和久羅安山岩で、ケイ素含有量が多く学術的には安山岩と区別するため「デイサイト」と呼んでいます。低地帯に噴出した山塊の頂上からは360度周囲が見回せ、奈良時代以降は非常時の通信手段「烽火」が、江戸時代には松江藩主展望見張り台が置かれ、地政学的にも重要な役割を果たしていました。

現在は気軽に楽しめるハイキングの地として親しまれ多くの市民が登頂する姿が見られます。高山に年100日以上通うという島根県自然保護レンジャーの平田忠男さんは「高山は小学生の頃から遠足などで登った親しみのある山です。春のキンラン、初夏のササユリ、シラウトソウなど貴重な花々も多い。私たちはこの自然を後世に残すためボランティアで環境整備、動植物保護の活動をしています。みなさんもこの天下の絶景を眺めにいらしてください。山頂の二つの社にまつわる伝説も興味深いですよ」と教えてくれました。



高山山頂からの眺め



島根県自然保護レンジャー
平田 忠男氏

桂島(松江市島根町)でジオパーク探検隊を開催!

貝のアクセサリや海のジオラマを作ったぞ!



7月30日、31日及び8月20日、21日の合計4日間、各日10組の小中学生の親子を募集して、島根町の桂島にて、子どもたちにジオパークを体感してもらう「ジオパーク探検隊」を開催しました。4日間で35組80人が参加し、参加した子どもたちは、桂島で出雲国ジオガイドの会のメンバーから溶岩でできた地質、地形や江戸時代に藩の港として栄えた歴史文化、さらに花や樹木などの植生、貝など海の生き物まで多様な解説を聞きながら巡りました。中でも、午後を作るジオラマや貝のアクセサリの材料となる貝殻拾い時や、海の生き物を試食するための、ベベ貝や巻貝などの生きた貝を集める時は、みんな夢中になっていました。

みんなで採った貝を、地元の漁師さんに用意していただいたサザエやカメノテと一緒に煮る様子を見学して食べました。みなさん一様に、珍しいカメノテの美味しさや平らな姿のベベ貝が食べられることに驚きの声を上げていました。この食事の合間には、地元の漁師さんに定置網などの漁業の話の話を聞きました。

その後は、子ども達が海のジオラマ作りと貝のアクセサリ作りをしました。海のジオラマは、拾って来た貝殻や石やシーグラス、漂着樹木などを使って、木箱の中に思い思いの海を創るものです。また、貝のアクセサリ作りは、小さな金属の枠の中に、貝をレジジンという透明な樹脂の中に閉じ込めて、海を感じる可愛いペンダントを作りました。



募集チラシ



溶岩でできた柱状節理を見学中!



カメノテを初めて食べた!



ジオラマ作りの説明を真剣に聞いている



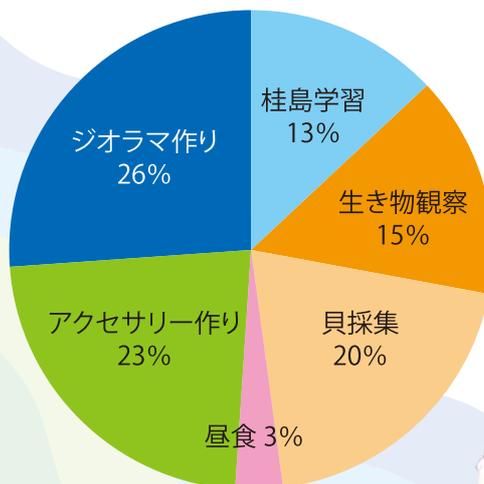
この貝なかなか取れんよ〜

参加者へのアンケート結果は、満足度は子ども達が98%、保護者が97%という好結果でした。しかし、海底火山の桂島の学習で、よく分かったという答えは、子ども達が57%、保護者53%で、解説にさらなる工夫が必要ようです。生きた貝の採集、ジオラマ作り、アクセサリ作りの3つは、それぞれに子ども達の100%が「楽しかった」との答えでした。

今回のイベントでは、ガイドや自然観察の際に、周りに見える漂着ごみや気候温暖化の問題にも触れて話をしました。そのためか、「地球や自然を守るためにやってみたいこと」を聞いた問いには、「ごみを出さない」「捨てない」「見つけたら拾って帰る」「生物の保護」などの回答があり、地球環境のことを考える時間にもなったようです。

来年も小中学生対象の自然に触れるイベントを開催したいですね。

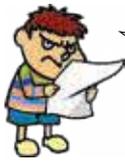
ジオパーク探検隊で一番楽しかったのは?



貝のアクセサリ



海のジオラマ



桂島の自然に癒されて身も心も熔岩のようにトロトロになるぞ!

ガイドの活動／桂島「定時ガイド」開催のお知らせ



出雲国ジオガイドの会 認定ジオガイド
松原慶子さん

約1500万年前の海底火山の噴火でできた桂島は、柱状の岩石やメノウの原石が数多く見られるジオサイトです。この桂島の周囲を専門ガイドの説明を聞きながら歩く「定時ガイド」が10月の土・日に開催されます。見どころを「出雲国ジオガイドの会」松原慶子さんに聞きました。

海底火山の宝島、桂島定時ガイドの見どころはここ!

桂島は遊歩道をぐるりと歩くと一時間ほどで回れますが、この小さな島にジオパークの見どころがギュッと詰まっているところが何よりの魅力です。海底火山噴火で形成された痕跡がありありと残っていて、なかでも島の北端にある放射状柱状節理は必見です。丸い溶岩ドームが海底で冷えて直径1mほどの花びらのような形に固まったものです。インスタポイントです。また乳白色のメノウがあちこちの岩の隙間に見られるのも桂島の特徴です。大地の記憶、様々な海辺の植物など貴重な自然の宝庫の桂島ですが、この地は昔から人々が大事にしてきたところで、江戸時代には北前船の寄港地、風待ち港であり、地域の暮らしが密接にあった場所です。ガイドとしては桂島の自然や歴史文化を楽しく紹介しながら、ジオパークの意味や役割に触れてもらい、地球環境や持続可能な地域づくりについて意識してもらえようご案内したいと思っています(談)。



加賀西ノ浜方面から望む桂島全景

■定時ガイド・インフォメーション

開催日: 10月1日・2日・8日・9日
15日・16日・29日・30日

時間: 受付13:00~13:20
(松江ビジターセンター)、
ガイド13:30~

所要時間90分程度

参加料: 500円

最少催行人数: 1名(定員10名)

※歩きやすい服装・靴でご参加ください。



全国のジオパークを紹介するぞ!
最初は隠岐だ!



隠岐ユネスコ世界ジオパーク紹介

隠岐は特異な大地の成り立ちに由来する、壮大な景観から地質、生物、文化、歴史の繋がりを語るジオストーリーを楽しむジオパークです。

4つの主島からなる人口約2万人の離島を範囲としており、海というはっきりとした地理境界を持っているため、隠岐の地理的な特徴が島内各所に反映されています。

離島としては珍しく、20種以上に区分される多様な地質があります。そこには隠岐だけでなく、日本列島と日本海の成り立ちも記録されています。

日本海の風浪によって削られたダイナミックな地形、奇岩を見ることができます。自然が作り出した断崖絶壁の「摩天崖」や「赤壁」、島の先端に夕陽が重なるとローソクに灯がともったように見える「ローソク島」は、まさに天然の彫刻作品です。

隠岐ジオパークをより楽しむには遊覧船やカヤックなどアクティビティ体験がおすすめです。小さな島で地球を体感できる隠岐へ、ぜひお越しください!

隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力がいっぱい!

詳しくはホームページをチェック



赤壁



カヤック、アクティビティ体験



アクセサリ作り体験や和菓子作り体験はすごく楽しいぞ!

「ジオパークの日」記念イベント開催

テーマは「ジオパーク!つくって感じるジオパーク」

8月22日の「ジオパークの日」を記念したイベントを、8月20日、21日にイオン松江ショッピングセンターと、アトネスイズムなどで開催しました。

イオン松江ショッピングセンターでは、「ジオパーク!つくって感じるジオパーク」をテーマとして、20日は貝殻を使用したアクセサリ作り体験、21日は化石をイメージした和菓子作り体験を実施し、2日間で合計89名の方に参加いただきました。

アクセサリ作り体験に参加されたお子様は、様々な形の貝殻を目の前に「綺麗な貝殻や珊瑚を選ぶのが楽しい」と目を輝かせていま



アトネスイズムの様子

た。保護者と一緒に取り組みながら、「夏休み中に海に行ってみよう」という会話や、「松江でとれた貝殻を

使って夏らしいキーホルダーを作ることができて嬉しい」という喜びの声が、また「大人でも参加したい」といった声をいただいたことが印象的でした。

アトネスイズムでは20日と21日に、実際にアンモナイトの化石を使用してカラフル化石のレプリカづくりを行い、小学生以下のお子様59名が体験され、好評を得ました。

来年度も多くの方に気軽に参加していただけるようなイベント、またジオパークの魅力に触れていただくきっかけとなるような機会を提供できるよう、取り組みます。



イオン松江ショッピングセンターの様子



ご存知ですか、ジオブランド商品

ジオパークのブランド力を高め、エリア内の自然の恵みを地域振興に活かすため、伝統文化、環境保全といったストーリー性のある地元産品をジオブランドとして認定し、ホームページやジオパークネットワークなどを活用して内外に広く発信しています。食品、酒類、茶、香水など31商品が認定されています。

おいしいジオブランドを紹介するぞ!



地元産品を使ったクラフトビール、どぶろく造りも手がける大根島醸造所



大根島醸造所 代表社員 門脇 淳平氏



大根島醸造所のクラフトビール、ジャパンリユワーリーカップ2021 銅賞受賞品も。

ベタ踏み坂として知られる江島大橋のたもとに合同会社大根島研究所の大根島醸造所があります。大根島産の米・安納芋を使った日本酒「竜溪」、焼酎「幽鬼」を地元の農家・企業と協力し開発したことで話題となりました。現在は地元農産品を使ったクラフトビールと特区認定のどぶろく造りに特化した醸造所経営をおこなっています。クラフトビールは現在20種を超え、使われる副材料も八束町産安納芋、そばの実とそばの花ハチミツ、美保関町産えびすみかん、島根町産いちじく、いわがき、トマト、そして地元銘菓など多彩に揃います。代表の門脇淳平さんは「クラフトビールの副材

編集後記

この暑すぎた夏の桂島イベントは汗だくでしたが、子どもたちには満足してもらえたようで来年も!という声が聞こえて来ています。でも夏は...この桂島イベントでは、子どもたちに漁師さんにも講師をお願いしました。漁法などの話とともに島根町の定置網にかかる魚も以前は少なかった南方の魚のサワラがたくさん入るようになったとか、海底で死んで裏返っているサザエを見るようになったなど、気候変動により海水温が高くなっているという深刻な影響を感じるものでした。

T・M

発行者：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

【松江市役所 ジオパーク推進室】

〒690-8540 島根県松江市末次町 86 番地
TEL : 0852-55-5399 FAX : 0852-55-5070
E-mail : kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

【出雲市役所 政策企画課 ジオパーク係】

〒693-8530 島根県出雲市今市町 70 番地
TEL : 0853-21-6612 FAX : 0853-21-6752
E-mail : seisaku@city.izumo.shimane.jp



島根半島・宍道湖中海ジオパーク 日本ジオパークネットワーク